

太宰府市

公文書館通信

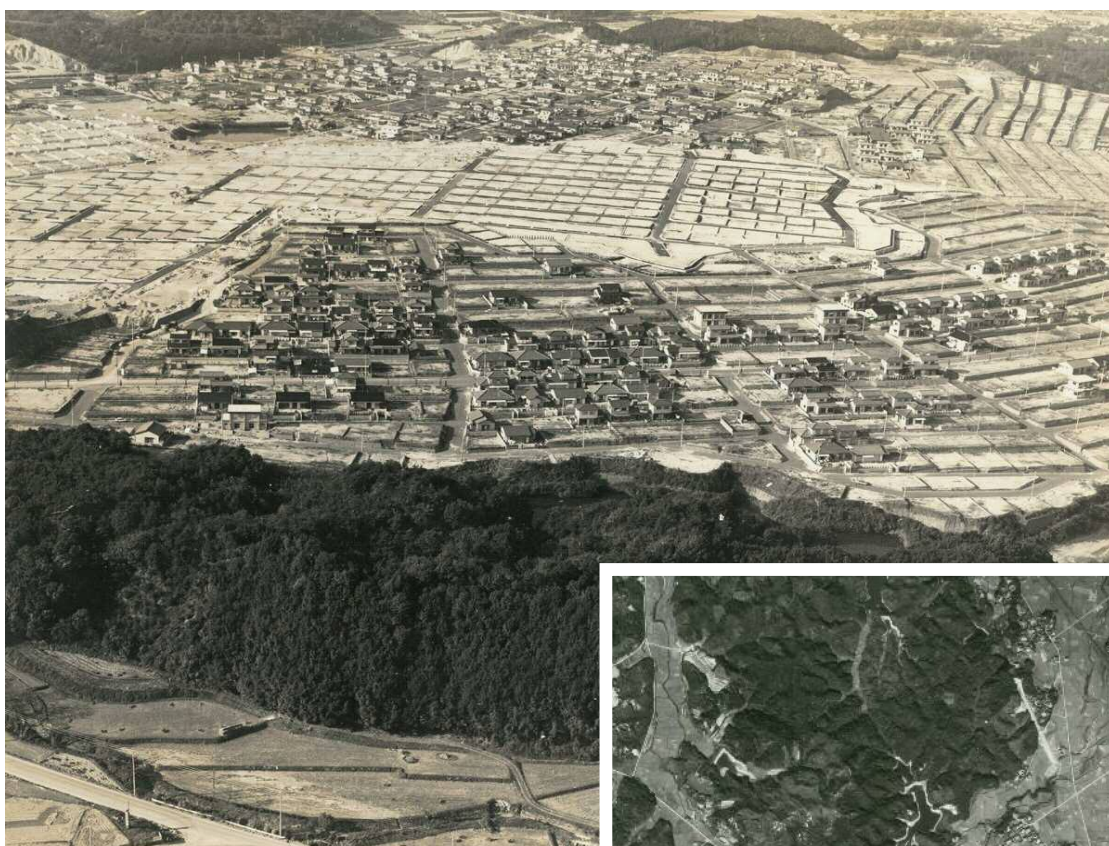
2020.7

vol.4

太宰府市公文書館パネル展

航空写真からみる太宰府のうつりかわり

開催中!!



1970年代初め頃の長浦台

1963年の長浦台付近

■展示

日時：①7月1日（水）～8月31日（月）、
令和3年1月5日（火）～3月29日（月）
午前8時30分～午後5時

②10月12日（月）～10月30日（金）

場所：①上下水道事業センター1階ビジターフロア（無休、観覧無料）

②市役所1階市民ギャラリー（開庁時、観覧無料）

航空写真からみる太宰府のうつりかわり

太宰府町の時代から、昭和57（1982）年の市制施行を経て平成、そして令和の時代へと、太宰府のまちなみは大きく変化しています。

現在わたしたちが暮らす太宰府は、大宰府政庁跡や太宰府天満宮を始めとする有数の観光地として名高く、最近「令和発祥の地」としても全国に知られています。この地を訪れた人に、緑豊かで歴史的な風情を伝える一方で、市内には高速道路やバイパスが通り、丘陵には住居が並ぶ、交通網が発達した住宅都市の姿も見せています。

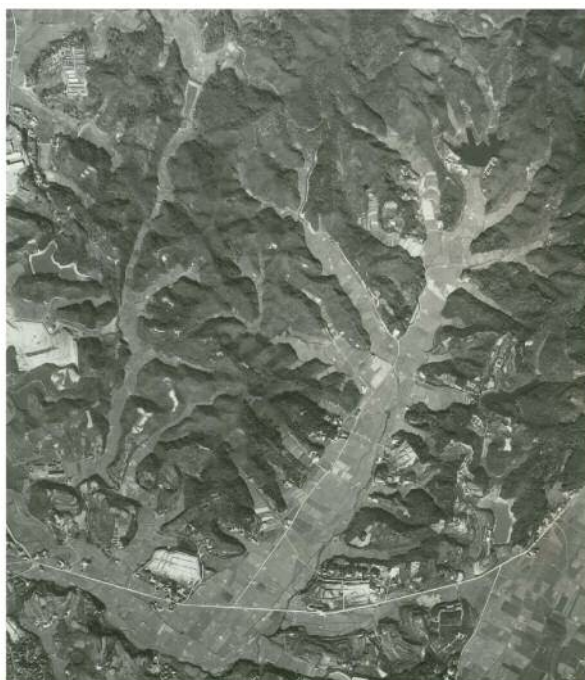
その姿がいつ頃作られてきたのか。ここでは、公文書館が所蔵する航空写真を使って、空から太宰府を眺め、まちの発展ぶりを追ってみたいと思います。

進む宅地の開発

下の写真は、現在の青山・梅香苑・高雄付近を、昭和38（1963）年と同52年に撮影したものです。左の写真では、高雄山には森林が茂り、谷間や麓には田畑が広がっている様子が見えます。ところが右の写真では、ほとんどの範囲を住宅が占めており、わずか14年間で宅地の造成が急激に進んだことがうかがえます。実はこの間町（当時）は、「人口倍增計画」を掲げて学校の誘致や宅地開発を積極的に進め、その基盤となる水道の整備に着手していました。

右の写真では、当時すでに大宰府政庁跡の南側付近まで延びていた、福岡南バイパスの一部が左下に見えます。この頃には町の西側を九州自動車道も通っており（昭和50年3月古賀・鳥栖間開通）、宅地造成と同時に主要道路の整備が進行していることが分かります。

一方、この時期は、大宰府史跡の史跡指定地拡張問題が町に持ち上がり、開発をめぐって太宰府が大きく揺らぐ時期でもありました。昭和47、48年には集中豪雨による大きな災害も経験し、開発に対する規制が求められるようになります。



昭和38年の青山・梅香苑・高雄付近



昭和52年の青山・梅香苑・高雄付近

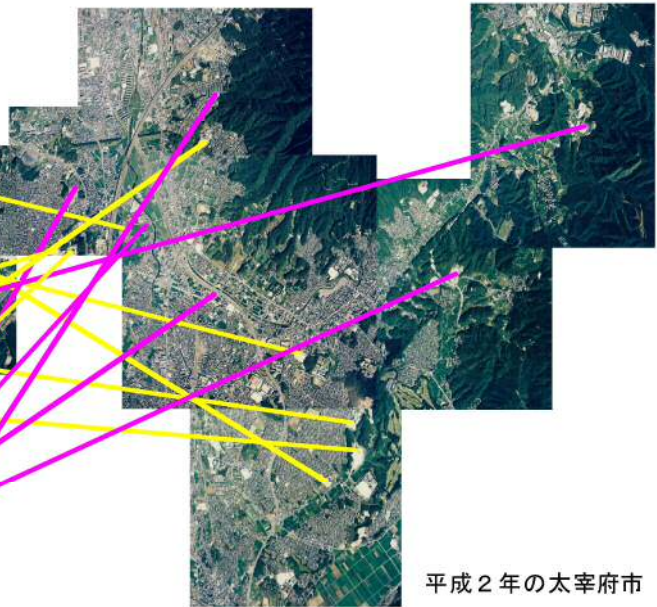
人口の増加と公共施設の整備

昭和57（1982）年に市制を施行した当時の太宰府市は、その要件の一つであった5万人の人口を有していました。これが平成に入ると6万人を超え、倍増計画が始まった昭和30年代末の人口約1万5千人に比べると、実に4倍も人口が増加します。以後は、良好な住環境を保つ方向へと発展の道が模索される時代となりました。

大規模な宅地の造成は1980年代前半で落ち着き、70年代から80年代にかけては新しい小中学校の建設が増え、90年代にかけては大型のスポーツ公園等の施設が整えられていきます。

また、下の平成2（1990）年の写真では、観世音寺地区区画整理事業（昭和54年起工・平成8年完了）の進展により直線化された御笠川が見えますが、太宰府は平成時代にも幾度かの水害を経験することとなり、防災をさらに重要視したまちづくりが求められることとなります。

1972年	4月	水城西小学校が開校する。
1973年	2月	九州歴史資料館が開館する。
1976年	4月	太宰府南小学校が開校する。
1979年	4月	太宰府中学校が開校する。
1980年	9月	太宰府西小学校校舎が完成する。
1981年	6月	北谷運動公園が開園する。
1982年	4月	国分小学校が開校する。
1984年	4月	太宰府東小学校が開校する。
1985年	4月	太宰府西中学校が開校する。
1987年	4月	太宰府東中学校が開校する。
1989年	4月	太宰府歴史スポーツ公園が開園する。
1992年	7月	太宰府史跡水辺公園が開園する。
1993年	1月	通古賀近隣公園が開園する。
1995年	4月	太宰府梅林アスレチックスポーツ公園・太宰府少年スポーツ公園が開園する。
1998年	4月	大佐野スポーツ公園が開園する。



平成2年の太宰府市

資料紹介

昔の太宰府の姿を伝える絵葉書・写真

右は、昨年度当館にご寄贈いただいた「太宰府名勝絵葉書」（5枚1組）からの1枚です。太宰府天満宮の梅園にあったらしい土産物屋「寺田梅光軒」が発行したもので、菅原道真が頂上で天に無実を訴えたと言われる天拝山は、参拝記念スタンプの下に隠れていますが、手入れされた田畑が写るのどかな前景が、菅原道真の悲壮な伝説を背負う土地の歴史と好対照をなし、独特な情緒をかもしています。

本号表紙を飾る、造成当時の長浦台団地の写真も、市民からご寄贈いただいたものです。当館では、太宰府に関わる古い写真等の調査・寄贈も受け付けています。



菅原道真ゆかりの天拝山を望む（昭和初期カ）
寺田梅光軒発行「太宰府名勝絵葉書」

掲 示 版

行政出前講座の申し込みご案内

行政出前講座の一つとして、公文書館職員が皆さんの元に出向いてお話しする講座を行っています（受講料無料）。

お申し込みはインターネットから（<http://www.city.dazaifu.lg.jp/cgi-bin/inquiry.php/51>）、あるいは申込書を公文書館にご提出ください（窓口提出でもメールでも可）。
問い合わせ：太宰府市公文書館

■ G-4 太宰府市の歴史

お住いの人々とともに「太宰府市史」からその地域の歴史を考えます。

■ G-5 公文書館の案内

公文書館の役割や所蔵資料について説明します。

※日程調整の期間が必要ですので、基本的には実施希望日の1か月前までにお申し込みください。

なお、新型コロナウイルスの感染状況等によっては、ご希望に沿えない場合がありますので、ご了承ください。



公文書館のご利用にあたりお願い

新型コロナウイルス感染防止のため、ご入室の際は、皆様にマスクの着用及び手洗い・手指の消毒をお願いしています。

また、混雑する場合は、ご利用時間等を制限させていただく場合がございます。

ご不便・ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどお願いいたします。



ふるさと納税のご案内

太宰府市では、ふるさと納税のお礼品として、『太宰府市史』全13巻14冊をご用意しています。

- ・14,000円以上の寄付で、お好きな巻1冊。
 - ・154,000円以上の寄付で、全14冊。
 - ・33,000円以上の寄付で、「令和」に因んだ3冊（通史編Ⅰ・古代資料編・文芸資料編）。
- この機会にぜひ、ご検討ください。



1冊5,000円でも販売中（送料別途）

アクセス

公共交通機関でお越しの場合は、コミュニティバス「まほろば号」（北谷回り）をご利用ください。
西鉄五条駅 or 西鉄太宰府駅（太宰府線）→上下水道事業センター下車



ご利用の案内

閲覧時間 午前9時～午後4時30分
（閲覧のための入館は午後4時まで）
閉館日 毎週土曜日・日曜日、祝日
年末年始（12月29日～1月3日）

太宰府市公文書館通信 Vol. 4

編集：太宰府市公文書館

〒818-0110

福岡県太宰府市御笠五丁目3番1号

電話：092(921)2322（直通、FAX兼用）

E-mail: kobunshokan@city.dazaifu.lg.jp

発行：太宰府市

発行日：令和2年7月1日